

日本財託 全社で29人参加

## 東京マラソン通じ自己変革

投資用マンション仲介の最大手、日本財託（東京都新宿区）は、重吉勉社長（50）のほか、28人の社員が、2013年2月24日に開催される東京マラソンに参加する。

重吉社長は以前、体重が90㎏以上ある巨漢だった。しかし、営業先で「自分の体重をコントロールできない人とは契約できない」言われてショックを受け、健康管理に配慮するようになった。

ベースとなっているのは、ウォーキング。本社がある新宿まで、30分かけて早足で通う。効果は顕著に表れて現在は62㎏。「まだ減らしていく」考えだ。また、マラソンの練習にも取り



組んでおり、今年2月の東京マラソンでは42.195㎏を6時間強で完走。「目標を持った健康管理はやりがいあるし、仕事にも生

きる」という理由で13年の大会では、多くの社員の参加を呼びかけた。ただ、東京マラソンは倍率が高いので有名。そこで1

人当たり10万円を支払えば参加できる寄付金枠を活用した。社会貢献にもなるため、金額は会社側が負担する。

寄付先は、小児がんなど難病と闘う子供らに、自然体験プログラムを提供する「そらぶちキッズキャンプ」（北海道滝川市）。本番時には、日本財託のキャラクターである豆が描かれた旗を持って、関係者が応援してくれるという。

メンバーのうちの1人は前回大会に参加し、3時間30分という好成績で完走した。この社員が練習の仕方などについてアドバイスを行っている。

参加者は30代が中心。「『東京マラソンをきっかけに自分を変えたい』『走りきることで何かが見えてくるのではないかと、意欲を示している』（宮崎雅敬執行役員）そうだ。

東京マラソン2012で、一斉にスタートするランナーたち。2月、東京都庁前